

主題	地域に密着したグループホームを目指すために		
副題	シャローム本天沼に行ったことがあるよ		
地域密着		研究期間	12か月

事業所	社会福祉法人三育ライフ 認知症対応型共同生活介護 シャローム本天沼		
発表者：望月 太敦	アドバイザー：我謝 悟		
共同研究者：中島 梨絵・遠藤 誠			

電話	03-3395-6333	E-mail	honamanuma@shalom.or.jp
FAX	03-3395-6331	URL	http://www.shalom-tokyo.net

今回発表の事業所やサービスの紹介	シャローム本天沼は、平成19年11月1日に開設したグループホーム（認知症対応型共同生活介護）であり、東京都杉並区本天沼にあります。最寄駅から徒歩で20分ほど離れた住宅地にあり、近くにはスーパーや肉屋などの商店や小学校、児童館があります。事業所は杉並区営住宅1階の一部にあり、1ユニット9名の方が皆で協力しながら暮らしています。
------------------	---

<p align="center">《1. 研究前の状況と課題》</p> <p>開設当初より入居者の生活を大事に支援してきたが、平成25年4月に杉並区地域包括支援センターケア24 清水で行われた地域連絡会にて、地域の子（見守り）として活躍されている方を対象とした講演会に参加した際、シャローム本天沼のことを知らない方がほとんどであった。</p> <p>グループホームは地域密着型サービスの事業所として、入居者の生活支援だけでなく、サービス利用されていない地域住民の方に対しても必要とされる地域に密着した事業所であるべきであり、シャローム本天沼の認知度の低さという課題が浮き彫りになった。</p>
--

<p align="center">《2. 研究の目標と期待する成果・目的》</p> <p>「グループホームから発信を続けることによって、地域の方に事業所の存在が認められるのではないか」という期待のもと、地域の方に呼びかけた行事、地域商店を意識した買い物、児童館の交流会などを計画し取り組むこととした。</p> <p align="center">《3. 具体的な取り組みの内容》</p> <p>シャローム本天沼を地域の方に認知されることを目的にグループホームからの発信を心がけ、以下の取り組みを行った。</p> <p align="center">◎平成25年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の方に呼びかけた行事開催（夏祭り・餅つきの開催） 2. 地域の商店を意識した買い物 3. 児童館との交流 4. 運営推進会議を通じた発信 5. 認知症サポーター養成講座の開催

◎平成 26 年度（平成 25 年度に続き）

- 6. 子育て地域ネットワークの参加
- 7. 民生委員児童委員協議会の研修受け入れ
- 8. 児童館交流会の事業計画化（年 2 回）
- 9. ホーム見学会の開催
- 10. 家族介護教室の受託
- 11. 広報誌の発行

《4. 取り組みの結果と考察》

一定期間（平成 25 年 4 月 1 日～8 月 15 日・平成 26 年 4 月 1 日～8 月 15 日）のグループホームへの来訪者数比較と、平成 25 年度と平成 26 年度に実施した夏祭り来場者アンケート結果から取り組みの評価を行った。

1. 来訪者数の比較

◎平成 25 年度

	4月	5月	6月	7月	8月	延数
地域	0	15	2	8	6	31
ボラ	24	6	6	8	3	47
延数	24	21	8	16	9	78

◎平成 26 年度

	4月	5月	6月	7月	8月	延数
地域	12	18	45	25	14	114
ボラ	4	4	0	3	3	14
延数	16	22	45	28	17	128

※ボラ：登録し定期的にホームで活動している方

※地域：ボランティア登録していない地域の方

※8月のみ 1 日～15 日までの期間で集計

2. 夏祭り来場者アンケート比較

◎来場者の年齢

	～10代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
H25	22	15	3	12	12	2	1	5	73
H26	18	7	2	15	6	6	10	11	75

※～10：10 歳未満 ※70～：70 代以上

◎夏祭りを知った方法

	伝言君を見た	チラシを見た	人から聞いた	福祉関係者	8町会 HP
H25	12	19	44	7	0
H26	11	29	20	14	1

※伝言君：杉並区民が使用できる掲示板

◎シャローム本天沼について

	知っている	知らない
H25	25	46
H26	57	18

大きく分けて「開く」「出向く」「受け入れる」の取り組みを継続していくことで、地域の方に広く認知される事業所となっていくと考えられる。

《5. まとめ、結論》

地域支援におけるグループホームの役割を考え、取り組みの質を高めていく必要がある。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

本研究発表を行うにあたり、使用する写真について、本研究発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

- 1) 公益社団法人日本認知症グループホーム協会『認知症グループホームを拠点とした認知症の人や家族支援のあり方に関する調査研究事業 検討委員会報告書』（2014年3月）
- 2) 公益社団法人日本認知症グループホーム協会『地域包括ケアシステムにおける認知症グループホームの役割と多様化に関する研究事業報告書』（2014年3月）

《8. 提案と発信》

地域に必要とされる事業所を目指していきます！

【メモ欄】